

ソフトウェア・シンポジウム 2016

～魅力的な「ソフトウェア開発」を目指して～

場所：米子コンベンションセンター BIG SHIP

主催：ソフトウェア技術者協会（SEA）



6/6（月曜日）	6/7（火曜日）	6/8（水曜日）
6/5（日曜日） 併設イベント 『ものをつくる楽しさってなんだろう？』 [エントランスホール・1 階]	9:00 ～ 10:00 [各会議室] ※4 論文・報告, Future Presentation ※5 10:15 ～ 11:15 [各会議室] 論文・報告, Future Presentation ※5 11:30 ～ 12:30 [各会議室] 論文・報告, Future Presentation ※5	9:00 ～ 12:00 [各会議室] ※4 ワーキンググループ・チュートリアル ※6
12:30 ～ 受付 [小ホール] ※1	昼食	昼食
13:10 ～ 13:25 [小ホール] オープニング 実行委員長挨拶 宮田一平（アイエックスナレッジ） プログラム説明 小笠原秀人（東芝）	14:00 ～ 18:00 [各会議室] ワーキンググループ・チュートリアル ※6	13:30 ～ 14:00 [小ホール] 全体セッション WG/TS からの報告と SS2016 のふりかえり 司会：小笠原秀人（東芝）
13:25 ～ 15:10 [小ホール] オープニングキーノート 『オントロジーとモデル理論に基づくソフトウェア開発の品質向上の実践 - 上流工程支援と下流工程技術の両立を目指して -』 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 情報技術研究部門 ソフトウェアアナリティクス研究グループ 上級主任研究員 和泉 憲明 氏 司会：宮田一平（アイエックスナレッジ）		14:15 ～ 15:15 [小ホール] クロージングキーノート 『大山とともに生きる ～マインドマーク大山の1300年物語～』 NPO 法人大山中海観光推進機構 （通称：NPO 大山王国） 理事長 石村 隆男 氏 司会：松本健一（奈良先端科学技術大学院大学）
15:40 ～ 17:40 ※2 フォーラムセッション（1） [第 6 会議室] ポスト・モバイル社会 - セカンドオフィンの世界 - フォーラムセッション（2） [小ホール] 地域貢献と研究成果を両立するソフトウェア工学教育の実践 - 不十分な条件下の SE 教育の創意工夫 -		15:15 ～ 15:30 [小ホール] クロージング 表彰 大平雅雄（和歌山大学） 実行委員長挨拶 松本健一（奈良先端科学技術大学院大学）
18:00 ～ 20:00 [国際会議室] ※3 情報交換会 司会：宮田一平（アイエックスナレッジ）		

※1：オープニング以降の受付場所は以下になります。誰もいない場合は、070-6429-0240 にお電話ください（この電話番号は、会期中にしかつながりません）。

1 日目：「小ホール」、17:40 以降「国際会議室」/ 2 日目：午前「第 5 会議室」、午後「第 6 会議室」/ 3 日目：午前「第 6 会議室」、午後「小ホール」

※2：フォーラムセッション1と2は並行して行います。どちらに参加していただいても構いません。内容の詳細については p.2 をご覧ください。

※3：情報交換会は 17:40 に開場し、18:00 には「開始」します。お早めにおいでください。

※4：2 日目、3 日目はともに、8:50 に開場します。

※5：論文・報告発表と Future Presentation は並行して行います。どちらに参加していただいても構いません。会場については p.2 をご覧ください。

※6：時間は会議室が利用できる時間帯を示しています。各 WG の開催会議室については p.3 をご覧ください。

運営方法は WG ごとに異なります。詳細は各 WG のリーダまでお問い合わせください。

WG のリーダは、火曜日は 13:40 以降に、水曜日は 8:40 以降に、鍵を「第 6 会議室」まで取りにきてください。

終了後は設備を元どおりにし、水曜日の 12:30 までに、鍵を「第 6 会議室」に持ってきてください。

フォーラムセッション 1 : 6/6 (月曜日) 15:40~17:40 [第 6 会議室]

タイトル: ポスト・モバイル社会 –セカンドオフラインの世界–

講演者: 関西大学 社会学部 メディア専攻 富田 英典 教授

概要: 私たちは、モバイルメディアを利用し、その場で必要な情報をすぐにインターネットで調べたり、いつでも友人と連絡をとったりしている。つまり、「オフライン」において「オンライン」情報を常時参照しているのである。このような状況を「セカンドオフライン」と名づけた。現代社会は、もはやモバイルメディア社会という範疇を超えた新しいもうひとつの社会へと移行しつつある。ここでは「可愛さ」の変遷など具体的な事例を取り上げながらその姿に迫る。

司会: 鰐坂恒夫 (和歌山大学)

フォーラムセッション 2 : 6/6 (月曜日) 15:40~17:40 [小ホール]

タイトル: 地域貢献と研究成果を両立するソフトウェア工学教育の実践 –不十分な条件下の SE 教育の創意工夫–

講演者: 阪南大学 経営情報学部 経営情報学科 大学院 企業情報研究科 花川 典子 教授

概要: 大学教育では学生教育の充実のみならず、地域社会貢献や就職支援、産学連携など多くを要求され、同時に自身の専門分野の研究成果も要求される。時間制約や人材制約の多い中、最大限の教育効果や研究成果を実現するための企業にも共通する創意工夫を紹介する。

司会: 栗田太郎 (ソニー、フェリカネットワークス)

論文・報告, Future Presentation

時間	第 2 会議室	第 3 会議室	第 4 会議室	第 5 会議室
9:00~10:00	形式手法/OSS	テスト	保守/レビュー	Future Presentation (1)
10:15~11:15	OSS/見積り/テキストマイニング	形式手法/保証ケース	要求獲得/保守	Future Presentation (2),(3)
11:30~12:30	プロセス改善/テスト	開発プロセス	チーム/ふりかえり	Future Presentation (3),(4)

◆6/7 (火曜日) 9:00~10:00

<形式手法/OSS> [第 2 会議室] 司会: 鈴木正人 (北陸先端科学技術大学院大学)

- 研究論文: VDM-SL 仕様からの Smalltalk プログラムの自動生成: 小田朋宏 (SRA)
- 研究論文: 重大不具合に対する OSS 開発者の認識調査: 松野祐介 (和歌山大学)

<テスト> [第 3 会議室] 司会: 秋山浩一 (富士ゼロックス)

- 経験論文: 大量の状態とイベントを持つプログラムの自動解析とテスト ~ 想定外のイベントを自動テストする ~: 下村翔 (デンソー)
- 経験論文: Flash メモリ管理における Concolic Testing の活用~メモリパターンを含む自動回帰テスト~: 西村隆 (デンソークリエイト)

<保守/レビュー> [第 4 会議室] 司会: 栗田太郎 (ソニー、フェリカネットワークス)

- 経験論文: 性能トラブル解決の勘所: 鈴木勝彦 (ソフトウェア・メンテナンス研究会/株式会社日立ソリューションズ)
- 事例報告: レビュー要求分析・設計・実装試行でわかったこと: 安達賢二 (HBA)

<Future Presentation (1)> [第 5 会議室] 司会: 中谷多哉子 (放送大学)

- Future Presentation (1): ソフトウェアの少子高齢化が急加速 ~開発中心パラダイムに未来はあるか? ~: 増井和也 (ソフトウェア・メンテナンス研究会)

◆6/7 (火曜日) 10:15~11:15

<OSS/見積り> [第 2 会議室] 司会: 鈴木裕信 (鈴木裕信事務所)

- 研究論文: 製品開発における OSS 導入のための OSS 事前評価手法確立に向けた調査: 松本卓大 (九州大学大学院)
- 研究論文: ISBSG データを用いた見積り研究に対する IPA/SEC データを用いた追試: 山田悠斗 (大阪大学)
- 経験論文: 週報のテキストマイニングによるリスク対応キーワード抽出: 野々村琢人 (東芝)

<形式手法/保証ケース> [第 3 会議室] 司会: 佐原伸 (法政大学)

- 事例報告: 保証ケース作成支援方式について: 山本修一郎 (名古屋大学)
- 事例報告: VDM++仕様から C#コードを生成するツールの開発と評価: 千坂優佑 (仙台高等専門学校)
- 研究論文: システム理論的因果律モデルに基づくプロセス改善分析: 日下部茂 (長崎県立大学)

＜要求獲得／保守＞ [第 4 会議室] 司会：小笠原秀人（東芝）

- 経験論文：ソフトウェア開発現場での Minute Paper の適用：岡本克也（エヌ・エム・エス）
- 事例報告：「保守あるある診断ツール」による保守課題の可視化事例：室谷隆（TIS）
- 研究論文：記憶力に基づくプログラム理解容易性評価尺度の追加実験：村上優佳紗（近畿大学大学院）

＜Future Presentation (2),(3)＞ [第 5 会議室] 司会：植月啓次（パナソニック）／西康晴（電気通信大学）

- Future Presentation (2)：非連続な実装を持つ連続値の境界値分析の考察：秋山浩一（富士ゼロックス）
- Future Presentation (3)：対話型アプリケーションを対象とした多種多様な環境に対応できるテスト実行自動化に関する手法（前半）：
安達悠（日本電信電話）

◆6/7（火曜日）11:30～12:30

＜プロセス改善／テスト＞ [第 2 会議室] 司会：田中康（東京工業大学）

- 経験論文：開発の"待ち", "遅れ", "欠陥"を防ぐプロセス改善 ～PM 改善ナビを利用した"待ち", "遅れ", "欠陥"の改善活動～：
比嘉定彦（アドバンテスト）
- 経験論文：ゲーミフィケーションを用いた探索的テストの効果報告：根本紀之（東京エレクトロン）
- 経験論文：ソフトウェア開発プロセスの違いによるテストプロセス成熟度の比較・考察：河野哲也（日立製作所）

＜開発プロセス＞ [第 3 会議室] 司会：阪井誠（SRA）

- 事例報告：新商品分野でのソフト品質保証プロセスの構築事例：久木達也（リコー）
- 経験論文：情報システム開発におけるソフトウェア資産の上流シフトへの対応：松山浩士（サイバーリンクス）
- 経験論文：BRMS を適用するためのフィジビリティ・スタディ：李東昇（富士通システムズ・イースト）

＜チーム／ふりかえり＞ [第 4 会議室] 司会：大平雅雄（和歌山大学）

- 経験論文：チームの協働状態を測る：Team Contribution Ratio ～手間のかかる質問紙からの脱却～：増田礼子（フェリカネットワークス）
- 経験論文：PBL におけるチーム比較を簡便化するための試行的取り組み：森本千佳子（東京工業大学）
- 経験論文：学生による UX／アジャイルソフトウェア開発の YWT ふりかえり事例：浦本竜（北九州市立大学大学院）

＜Future Presentation (3) ,(4)＞ [第 5 会議室] 司会：西康晴（電気通信大学）／八木将計（日立製作所）

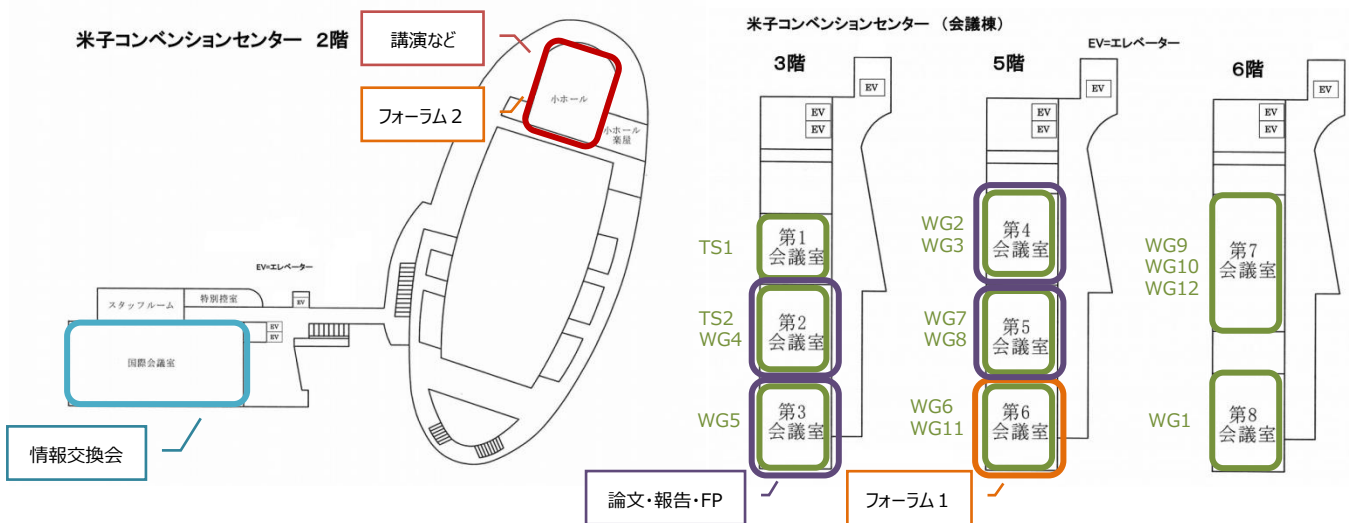
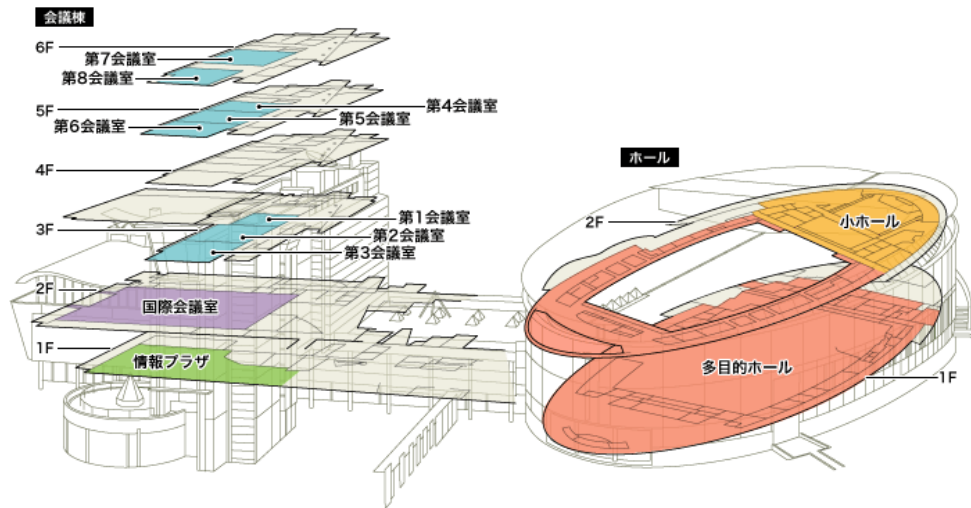
- Future Presentation (3)：対話型アプリケーションを対象とした多種多様な環境に対応できるテスト実行自動化に関する手法（後半）：
安達悠（日本電信電話）
- Future Presentation (4)：非機能に関する要求仕様書作成の課題 ～開発現場における問題と USDM を用いた解決方法～：水藤倫彰（デンソー）

ワーキンググループ・チュートリアル 6/7（火曜日）14:00～18:00, 6/8（水曜日）9:00～12:00

WG	略称	名前	場所
1	ED	自律的な成長力の育成	第 8 会議室
2	RV	リスクアセスメントをベースとしたソフトウェアレビュー	第 4 会議室 (1)
3	MT	不立文字から形式知に～ソフトウェア保守技術の伝承考える～	第 4 会議室 (2)
4	TA	チーム活動を外から比較する ～チーム協働状態を示すチーム貢献係数～	第 2 会議室 (2)
5	TT	状態遷移を含む統合テストの自動生成 <Concolic testing の進撃>	第 3 会議室
6	SS	ソフトウェアと社会	第 6 会議室
7	RQ	要求技術者の責任と社会システムの狭間	第 5 会議室 (1)
8	FM	Pre-formal ツールを用いた仕様記述の実践と応用	第 5 会議室 (2)
9	RC	アジャイル RCA+ SaPID による障害分析から対策策定までの一気通貫プロセスの体験	第 7 会議室 (1)
10	SD	サイズ・見積もってますか？ - USDM で仮説見積もりと高精度のサイズ見積りに挑戦しよう	第 7 会議室 (2)
11	SE	ソフトウェア開発の現状と今後の発展に向けたディスカッション	第 6 会議室
12	DC	D-Case	第 7 会議室 (3)

TS	略称	名前	場所
1	FC	ソフトウェア開発チームのためのファシリテーション入門	第 1 会議室
2	PT	パターン・ランゲージの再入門 再利用からクオリティの生成へ	第 2 会議室 (1)

【会場案内】 米子コンベンションセンター BIG SHIP



最新情報について

SS2016 の最新情報は、随時 Web ページに掲載いたします。公式ページの「新着情報」をご覧ください。

<http://sea.jp/ss2016/news.html>



Memo